きのくに自主防災

第34号（令和8年3月号）

＜発行元＞
和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局（和歌山県庁防災企画課内）

地域防災活動交流会開催しました！

近年、地球温暖化の影響により全国的に風水害が激甚化しています。また、南海トラフ地震も高い確率で発生が想定されており、地域の防災力の向上はかつてなく重要になっています。
一方で、少子高齢化や核家族化により、地域のつながりは希薄化しつつあります。

県では、災害時に備えた「顔の見える関係」の構築が不可欠と考え、自主防災組織や防災士、活動に関心のある方々を対象とした交流会を開催しました。
令和6年度の西牟婁地域に続き、令和7年度は県内全ての振興局で開催しました。本号では、活発な意見が交わされた各会場の様子を詳しく紹介します。

令和8年度も、各振興局において開催を予定しております。参加者同士の意見交換を交えながら、各地域の課題解決及び参加者の関係性構築に繋がる交流会にしたいと考えています。
詳細は追ってご案内します。地域防災力向上に向け、皆様のご参加をお待ちしております。

和歌山県内表彰

令和7年度に、県内の自主防災組織が、以下のとおり表彰を受けられました。
受賞された方々、おめでとうございます！

・令和7年防災功労者内閣総理大臣表彰

災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献した団体又は個人を対象として表彰。

受賞団体：和歌山市『木本地区防災会』（会長　東内　敏幸氏）

平成11年に発足し、継続的に防災体制の整備に取り組んでいる。地理情報システム（GIS）を活用した木本地区防災マップをWeb上で公開し、大規模避難訓練の実施に役立てている。安心・安全に暮らせるまちづくりに多大な貢献をしている。

・令和7年防災功労者防災担当大臣表彰

災害時の防災活動の実施、防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献する団体又は個人を対象として表彰。

受賞団体：和歌山市『加太地区防災会』（会長　藤井　保夫氏）

平成7年に発足し、継続的に訓練を実施。地区内における避難経路等を把握して早期避難につなげる計画を策定。避難対策ワークショップの主催など、地区の防災力及び地区住民の防災意識の向上に多大な貢献をしている。

海草振興局

海草振興局地域防災活動交流会

◆日　　時　令和7年11月22日(土) 10:00～12:00
◆場　　所　和歌山県民文化会館　大会議室
◆事業説明　・「県における防災人材育成などに関する説明」
　海草振興局地域づくり課　主査　増谷 篤
◆事例発表　・「避難だ！誰ひとり残さないぞ！」
　和歌山市 加太地区防災会　藤井　保夫氏
　地区防災計画の作成に関することや今まで取り組んできた防災訓練(避難所開設訓練や炊き出し訓練、個別避難計画に基づく避難訓練、水防訓練、車いすの水平・垂直避難訓練等)について発表いただきました。
　・「自分たちでできることは全てやる。」
　海南市 塩津区防災会　南方　嘉門氏
　活動のポイントは「地域のつながりを活かす、地域活動や資源を活かす、持続可能な取り組みとなるよう計画する」ということや幌を使った簡易担架の紹介をしていただきました。
　・「人と人とのふれあいの場 」
　紀美野町 下神野地区自主防災組織　松本　守信氏
　令和5年6月に発生した梅雨前線及び台風第2号による大雨災害で避難所運営をした経験談と多くの関係機関と連携して実施している総合防災訓練について発表していただきました。
◆説　　明　・地震・風水害(防災)に備える防災トイレの重要性
　株式会社サンコー　土井　誠司氏
　防災トイレの備蓄状況や備える大切さなどについてお話しいただきました。
◆ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ　「地域住民の防災意識を高めるためには。」
◆フリータイム　自由に交流　「顔の見える関係をつくろう！」

参加者の声

- 人と人とのつながりをどう作っていくかが共通の課題であると思う。
- 各地区の防災の取り組みを知る事ができました。
- 是非、次回開催をよろしくお願いします。お顔を見ての交流が良かったです。
- 今後もぜひ参加したいと思います。
- 簡易トイレ買います。



取組事例を発表する地区代表者

那賀地域防災交流会

◆日　　時　令和7年11月29日(土) 10:00～12:00
◆場　　所　那賀振興局　大会議室
◆事例発表　・「自主防災推進のために(横谷自治区の取組み)」

紀の川市横谷自治区　区長　北田　義晴氏　　消防団　田村　隆明氏

2016年度から自治会や消防団が連携し、避難マップや「自主防災活動マニュアル」を作成したり、地域の実情に応じた訓練を実施するなど、横谷自治区が取り組んできたことについて発表していただきました。

・「紀の川市防災リーダー会」

紀の川市防災リーダー会　会長　東山　壽彦氏

2007年に結成され、市の防災訓練への協力や小学生への出前講座など、紀の川市の防災に貢献されているリーダー会の発足の経緯や活動について紹介していただきました。

・「かみとんだ防災プロジェクトについて
～後方支援を担う地域としての活動～」

株式会社後工務店　地域事業部　後　棟晃氏

地理的な面や災害との関係などで那賀地域と類似性がある上富田町で、住民や団体などを巻き込んで防災への意識向上に取り組んでいる後氏に、活動内容等について発表いただきました。

◆参加者同士の交流

4グループに分かれ、まずはお互いに自己紹介。そして県担当者より防災人材の育成など県の施策について説明した後、皆さんで「地域の防災力を高めるには」をテーマに、意見交換をしていただきました。

【主な意見】
・地域や自治会の高齢化が進んでおり、若い人の加入が少ない。
・若者を巻き込んで防災意識を高めることが必要だ。
・日頃からの「顔の見える関係づくり」が重要だ。

参加者の声

・次回も参加したい。
・他に防災に取り組んでいる自治会のことを知りたい。
・グループワークをもっと長くしてほしい。



伊都振興局

伊都振興局地域防災活動交流会

◆日　　時　令和8年1月24日(土)13:30～16:20

◆場　　所　伊都振興局　3階大会議室

◆講　　演

○第1部

・「自主防災組織とは～城山台自主防災組織の事例～」

伊都・橋本防災士の会　会長　山下　登氏

　積極的に活動している橋本市城山台連合自主防災会の取組事例を交えながら、自主防災組織の役割についてご講演いただきました。



第1部 講演の様子

○第2部

・グループワーク

明石工業高等専門学校

准教授　博士(工学)　本塚　智貴氏

　地域防災活動における課題などをテーマに、グループワークを実施しました。

　講師からは、地域防災のコミュニティについてや、避難者ゼロを目指す自治会の事例、若年層や子育て世代に防災コミュニティに参加してもらうための工夫(地元の夏祭りを活用)などの助言をいただきました。



開催案内チラシ



第２部 グループワークの様子

参加者の声

- **発想の転換が図れ、今後の活動に活かしていきたいです。**
- **高齢者対策をどうするか。**
- **女性や若年層をどうしたら取り込めるか。**
- **他の地域との交流ができてとてもよかったと思います。**
- **近所とのつながりを密にしていくことの大切さも感じました。**

有田振興局

令和7年度防災の寺子屋（in湯浅町）
～地域防災活動交流会～

「防災の寺子屋」とは有田管内市町、各消防本部及び有田振興局が共同で、地域住民を対象に防災啓発イベントを実施し、参加者に防災に関する実践的な知恵や心構えを学んでもらい、そこで得た知識と技能を各自の地元に還元していただくことで、有田地域全体の防災意識の高揚につなげることを目的として開催しています。
令和7年度は毎年参加をお願いしている自主防災組織に所属する方に加え、地域の防災士の方にもお声がけをし、開催しました。

◆日　　時　令和7年9月20日（土）
10:00～12:00

◆場　　所　湯浅町役場3階なぎホール
（湯浅町青木668番地1）

◆講　　義



実体験を語る田中館長

・「被災地に学ぶ地域力
～能登半島地震における共助の力～」
石川県能登町高倉公民館　館長　田中　隆氏
実際に能登半島地震を経て体験したことを時系列で説明していただき、その中で役立ったことや困ったこと、大切であると感じたことなどを発表していただきました。

・「地域における防災力向上に向けて　～地域でできること～」
日本防災士会和歌山県支部　事務局長　奥田　恭久氏
防災士としてのこれまでの経験や活動の紹介、『SNSを利用した情報共有』、『災害用設備、資材の準備』など防災力の強化に向けた講演を行っていただきました。
★講演中、各地域の防災力について住民同士の意見交換の場を用意

・「ペットの災害対策について」
・有田振興局　健康福祉部　衛生環境課　主任　峯村　淑江



事例紹介を行う奥田事務局長

参加者の声

- **被災者本人による実体験、生の声を聴くことができて特によかった。**
- **具体的な事例が参考になった。**
- **被災体験者による講演を今後も継続してほしい。**
- **実践型ワークショップや模擬訓練を行ってほしい。**

日高振興局

日高地域防災活動交流会

◆日　　時　令和8年2月7日(土) 10:00～12:00
◆場　　所　日高振興局別館2階　大会議室
◆事業説明　・「県における防災人材育成に関する説明」
　日高振興局総務県民課　主査　吉原　大貴

◆講　　演　・「～自らの故郷は自らで守り、育てる～」
　小引区自主防災会(由良町)　会長　内芝　善明氏
　要支援者の避難体制などを定めた地区防災計画の作成や、住民の半数以上が参加する避難訓練の実施など、「自分たちの命は自分たちで守る」ために取り組んでいる活動についてお話いただきました。

　・「誰もやらないからやるのではなく、誰もやらなくともやる 」
　紀州梅の郷救助隊(みなべ町)　隊長　尾﨑　剛通氏
　被災地での捜索活動や炊き出しなどの支援活動を通じて体験した、現場における実情や、被災された方々が何を求められていたかなどについてお話いただきました。

◆ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ　「地域防災活動の取組事例について」
　各地域での訓練や啓発活動などの事例について各グループで話し合い情報共有を行いました。



講演の様子


グループワーク

参加者の声

- 交流は非常に大切だと思いました。
- 人それぞれの思いや考え方があり色々参考になりました。
- 各地区、地域でかかえている問題には共通点が多く参考になりました。
- 実体験された話は貴重です。話から何を学ぶかが大切だと思います。
- 小引区に現地視察にいきたいです。

西牟婁振興局

田辺西牟婁地域防災活動交流会

◆日　　時　令和8年3月7日（土）10:00～12:00
◆場　　所　上富田文化会館　小ホール
◆事例発表　・「人と人とのふれあいの場」

紀美野町　下神野地区自主防災組織　松本　守信氏

令和5年6月に発生した梅雨前線及び台風第2号による大雨災害で避難所運営をした経験談と多くの関係機関と連携して実施している総合防災訓練について発表していただきました。

・「防地地区自主防災組織の平時からの取組事例」

すさみ町　防地地区自主防災組織　田中　大介氏

地域で要支援者を把握した助け合いマップ作成や、親子防災合宿による避難所生活の体験を通して、防災意識と住民同士の支え合いを高める取組について発表していただきました。

◆フリータイム　全体交流会＆防災グッズ展示会

参加者同士で防災の工夫を共有するため、参加者皆さまの防災グッズを展示しました。



取組事例を発表する地区代表者



交流会及び展示会の様子

⚠防災グッズ展示⚠

- 簡易トイレグッズ
- 防災かるた・防災ビンゴ
- 100均で揃える防災グッズ
- 季節のイベント防災カレンダー
- 防災てぬぐい・防災バンダナ
- ダイパーバッグ活用法ゲーム
- 蓄電池・発電機

参加者の声

- 普段の地域活動や防災学習、訓練が実際の災害に生かされた経験を聞けてよかったです。
- 顔の見える関係づくりは基本だと感じました。
- 防災の活動をしている方々とのつながりこそ大切なので、今日の出会いから1つでも実践に生かし広げていきたいと思いました。
- 自分の地区でも生かしてみたいと思います。

東牟婁振興局

新宮東牟婁地域防災活動交流会

◆日　　時　令和8年3月13日（金）14:00～16:00

◆場　　所　東牟婁振興局3階大会議室（新宮市緑ヶ丘2-4-8）

◆講　　演　・「防災気象情報の改善について」
和歌山地方気象台　防災気象官　湊　伸一郎氏
令和8年5月下旬から運用開始予定の新しい防災気象情報について説明いただきました。

◆事例発表　・「災害後に育まれた住民のつながりと地域づくり」
新宮市社会福祉協議会　大江　真季氏
紀伊半島大水害を体験したからこそ始まった地域活動について発表いただきました。

・「それが来る前に…備える！@色川地区」
色川地区自主防災組織　鳥羽山　誠一氏
住民の防災意識向上へとつなげるため実施した防災ワークショップ及び炊き出し訓練について発表いただきました。

◆ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ　「防災について」


事例発表をする地区代表者


グループワークの様子

参加者の声

- 住民の自助意識に温度差があることが課題だと思いました。
- 防災士の方々の熱量を感じました。
- 防災に対する不安が解消された。
- 他の地域の話が聞けて良かった。
- 今後も交流会を開催してほしい。
- 懇親会も開いてほしい、話が尽きません！

